

あじさいの花の美しさに思わず、足を止めてみられてしまう今日この頃です。

【梅雨】六月十一日頃

梅雨の季節に入ると長雨が続きます。この長雨のお蔭で日本の田植えがで



ます。大地はたつぷりと水を貯蔵し、野山の緑は豊かになり、夏の暑い時期にも涼水を供給してくれます。雨の恵みにはただ感謝のみ。

梅の熟する頃に降る雨というので梅雨(ばいう・つゆ)、徼雨(ばいう・つゆ)とも書くように、徼を生じやすくする雨なのです。五月雨(さみだれ) 村雨(むらさめ) 空梅雨(からづゆ) 緑雨(りよくう) 麦雨(ばくう) 甘雨(かんう) 瑞雨(ずいう) : 等々、雨を表す日本語はたくさんあり、日本人の繊細な感性に驚かされます。

この徼は『古事記』『日本書紀』の天地創世の神話にあるごとく、ウマシアシカビヒコジノカミの葦牙であり、生えてくる生命でありました。そのカビの神は日本の創世記の神であり、文化を育ててカビの文化を生み出した神なのです。日本人は、このカビを味方として酒や漬物や納豆などの酵素利用の発酵食品をつくり出しました。ともすれば敵視しそうなカビを防ぎながら、湿気に対応することから酵素を活用するユニークな文化―カビを生かした腐りの利用は、世界にも類の少ない独特の文化です。自然征服の発想を輸入した現

代は、そのための公害に悩んでいます。この大自然の中で謙虚に生きてきたこのような日本人の生活伝統を想起し、あらためて自然からの恵みを再発見したいものです。

【七夕】七月七日

七夕祭りは中国の古い星の伝統がわが国の大昔からの棚機女の信仰と結びついて始まった祭事です。持統天皇の頃、宮中の五節句の一つとなりました。

中国の伝説、牽牛と織女のお話は「乞巧奠」といって、神に手功を乞うという意味。星祭りをして技芸の上達を祈ると望みが叶うとされました。



日本では、この乞巧奠が伝わる以前より、遠い神代の時代から棚機姫信仰がありました。七夕祭りは中国の古い星の伝統がわが国の大昔からの棚機女の信仰と結びついて始まった祭事です。持統天皇の頃、宮中の五節句の一つとなりました。

神代の時代、機織神として天棚機姫命という女神がおられ、天照大御神が天の岩戸へお入りになった際、神衣を織って大神に奉仕せられたといわれます。

また天孫瓊杵尊が天降りまして日向の国笠沙の御前にお立ちになった時、水辺の機屋へ(八尋殿)で一心に機を織りながらお待ちになつておられた少女がこの棚機女または乙棚機女で、木花咲耶姫といって瓊杵尊の后となられたお方です。神衣を織り、静かに神の訪れを待つのが棚機女で、「機を織る」ということは、神聖な意味を持っていたようです。

古来より、七月七日は、わが国固有の祖先

の霊を祭る大切な祭り日とされてきました。

祖先の霊を高い空に輝く星とみなして祈る思いとなったのでしよう。

子供達が星空に夢を描き、その美しさ、不思議さ、宇宙の神秘に感動する心を育んでいきたいものです。



家庭教育のワンポイントアドバイス

教育の原点

教育の荒廃を見るに至り、教育の再建が大いに叫ばれるようになりました

そこでわたくしは、次の三つを提言したい。一つ目は「躰け」であります。

①朝のあいさつの必ずできる子にすること。

②呼ばれたら必ず「ハイ」と言える子にすること。

③ハキモノを脱いだら必ず揃え、立つたら必ず椅子を机に入れること

この三か条を持って、わたくしは「躰けの三原則」と申しております。この躰け教育によって、まず、人間を軌道に乗せることが可能であり、これは家庭教育、学校教育のいかに問わず、これこそが人間教育の最基盤と

「父親のための人間学」森信三著

(致知出版社発行)より

# 和歌コーナー

ちようちよが きらきらいいね かわいいね

おかあさんと いっしょにつくったよ

年中 Y・M

☆お母さんと一緒に、お花をかいたり、工作をつくったりして、楽しかったですね。

てらこやが はじめてだった

どきどきしたよちようちよつくって

たのしかったよ

年長 T・Y

☆はじめての寺子屋でしつかり、書道もできました。楽しく工作もできてよかったですね。

そらまめは ふかふかベツトに ねているよ

きもちよさそうに ねていたよ

年長 M・S

☆そらまめの中はふかふかでやわらかくて、ベツトでねているみたいですね。

そらまめは かわをむいて わってみたら

くさくて ぼくは びっくりしたよ

小学一年 H・H

☆においをかいでみたのね。さすが颯音君ですね。



そらまめの なかはふわふわ しろいベツトが  
そとはみどりでかたかったよ

小学一年 K・S

☆そらまめの外は固いの、中はふわふわで、やさしいベツトみたいで、ふしぎですね。

ちようちよをね つくるのが たのしかったよ

くつついたのが おもしろかった

小学一年 Y・T

☆ゆびでこすったら、ちようちよがひらひらとんで、ふしぎでしたね。

そらまめは はなのにおいがしたよ

おふとんみたい なかはふわふわ

おしゅうじが たのしかったよ

もういっかいしたい

もっとじょうずにになりたいな

小学一年 Y・K

☆いっしょうけんめい、集中してお習字を書いていますね。素晴らしいです。



## 今月の論語

子、曰く

「君子は

其の言の、其の行に

過ぐるを恥ず。」

(現代語訳)

孔子先生がおっしゃった。

「君子とは自分の言葉が実際の行動以上に大げさになってしまふことを恥と

考えるものである。」

(解説)言葉ばかりで、行うことができない

のは、恥ずかしいことですね。まず、正しい

行いができることが大切です。

「親子で楽しむ こども論語塾」(明治書院)より

今回は、七月二十一日(土)、6階 和室 です。

(文責・藤波)